

ロシア連邦

Russian Federation

2008年10月

1. 一般事情

人口：1億4,200万人（08年1月現在）

首都：モスクワ

面積：1,707万km²（日本の約45倍、米国の2倍近く）

民族：ロシア人（81.5%）、タタール人（3.8%）、ウクライナ人（2.9%）等

言語：公用語はロシア語（他に100以上の言語がある）

宗教：ロシア正教がもっとも優勢であるが、イスラム教、仏教等多数の宗教が混在。

2. 歴史・文化

歴史：ロシア国家の起源は、9世紀にノルマン人の首長リュールリックがノヴゴロドに来て、「ルーシの国」を建てたことに始まる。13世紀にはモンゴルの支配を受けたが、やがてモスクワ大公国が台頭し、15世紀のイワン雷帝の時にモンゴル支配を克服。雷帝の死後、動乱時代を経てロマノフ朝成立。ピョートル大帝（1682年即位）の時代にロシア帝国の基礎が築かれる。この帝国は、1917年2月の革命により崩壊し、代わって同年10月の革命でレーニン率いるボリシェビキがソヴィエト政権を樹立。その後周辺諸国を加えて1922年にソヴィエト連邦（ソ連）が成立。

ソ連は、共産党の一党支配を基盤とする社会主義国家として1960-80年代には米国と覇権を競うまでになったが、経済・社会は停滞。このような状況を打開するべく、1980年代後半に登場したゴルバチョフ書記長の指導の下に「ペレストロイカ（建て直し）」政策が進められたが、国内の混乱を招き、共産党支配が揺らぎ始めた。そして、1991年8月の政変を契機として一気に崩壊が始まり、同年12月に解体。このソ連を引き継いだのは、エリツィン大統領（1931-2007）が率いるロシア連邦で、同大統領は民主化と市場経済化のための大胆な改革に着手したが、多くの困難を伴い、結局1999年末に任期終了を待たずに辞任した。その後2000年3月の大統領選挙でプーチンが勝利し、同年5月に第二代大統領に就任した（2004年3月再選）。同大統領は、市場経済化の路線とともに、混乱した政治状況を収束させるべく縦の権力体制の構築を進め、政治的安定を達成した。2008年3月、プーチン大統領の任期満了に伴う大統領選挙が行われ、プーチン大統領が後継者として指名したメドヴェージェフ第一副首相が2008年5月、大統領に就任。同大統領は、プーチン前大統領の首相就任を下院に提案し、圧倒的同意を得てプーチン首相が就任した。

文化：文学においては、ドストエフスキー（「罪と罰」、「カラマーゾフの兄弟」）、トルストイ（「戦争と平和」）、チャーホフ（「桜の園」）、プーシキン（ロシア文学の父、ロシア国民詩人）を、音楽においてはチャイコフスキー、リムスキー・コルサコフ、ムソルグスキー、ストラビンスキー等の大作曲家を輩出。また、世界最高峰との評価のロシアバレエ工が有名。

3. 政治体制・内政・外交

元首：大統領（任期4年、2期まで）；メドヴェージェフ・ドミトリイ・アナトリエヴィッチ（08年5月就任）

議会：連邦院（上院）と国家院（下院）の二院制

- ・連邦院（定数178：連邦構成主体の行政及府及び立法機関から代表者各1名）
- ・国家院（定数450、任期4年：2007年12月の国家院選挙（完全比例代表制）の結果、プーチン大統領が候補者名簿筆頭となった「統一ロシア」が改憲可能な3分の2以上の議席を確保し圧勝。この他議席を獲得した政党は共産党、自由民主党、「公正ロシア」。なお、2008年5月7日付でプーチン首相が「統一ロシア」党首に就任している。）

政府：プーチン首相、ズプコフ第一副首相、ジュヴァロフ第一副首相、シューコフ副首相、イワノフ副首相、クドリン副首相（兼財務相）、セーチン副首相、ソビャーニン副首相（兼政府官房長官）、フリステンコ産業貿易相、ナビウーリナ経済発展省、シュマトコ・エネルギー相 他。

内政近況：メドヴェージェフ大統領は宣誓後のスピーチで、市民社会、経済自由及び法の遵守を重視し、全力での仕事を約束。首相に就任したプーチン氏が、副首相の大幅増員などにより実質的な権力を握り、当面は大統領との双頭体制により前政権の路線を継承するとの見方が一般的。

外交：積極的な首脳外交を展開。経済外交を重視し、世界経済システムへの統合、特にWTO早期加盟が当面の課題。CISが外交の最優先地域。最近は、欧米との関係で難しい局面が見られる一方、中国、インドとの協調やアジア太平洋地域重視を打ち出している。また、中南米や中東・アフリカ諸国に対する外交も活発化している。

4. 経済事情

GDP：1兆2,896億ドル（07年、IMF“World Economic Outlook Database”）

一人当たりGDP：9,075ドル（同上）

経済成長率：8.1%（07年、ロシア統計国家委データ）

主要国内産業：鉱業（石油、天然ガス、石炭、鉄鉱石、金、ダイヤモンド等）、鉄鋼業、機械工業、化学工業、繊維工業

原油生産量：977万バレル/日（06年、世界2位、BP統計）

天然ガス生産量：6121億立法㊦（06年、世界1位、BP統計）

貿易額：輸出 3,551億ドル、輸入 2,230億ドル（07年ロシア中央銀行）

主要貿易品目：輸出（石油、天然ガス、鉄、非鉄金属、機械設備等）

輸入（機械設備、食料品、農産物等）

主要貿易相手国：輸出（蘭、伊、独、バラルツ）、輸入（独、中国、ウクライナ、日本）（07年）

通貨：ルーブル（\$1=26.98ルーブル、¥100=27.69ルーブル：08年10月23日現在）

経済近況：〔好調な経済〕98年8月に金融危機に見舞われたが、99年以降、ルーブルの切り下げによる国内産業の復調と石油価格の高騰を主な原動力として経済は回復。07年には9年連続のプラス成長を記録。

〔予算〕：08年より3ヶ年予算に移行。08年は6.6兆ルーブル（31兆円）、09年は7.5兆ルーブル（35兆円）、10年は8.1兆ルーブル（38兆円）。

〔経済構造改革〕：産業多様化のため経済構造の改革を目指す。電力増産、運輸インフラの整備、資源の効率利用、ハイテク及びナノテクノロジーの振興が優先課題。「ロ

スナノテク」(ナノテクノロジー)等の国営公社を設立。
〔安定化基金再編〕：04年、原油価格の下落に備え、安定化基金を設立し、原油収入の一部を積み立て。08年2月、「準備基金」(原油価格下落への備え。1,270億米ドル)と「国民福祉基金」(年金、ハイテク振興等。320億米ドル)に分割。後者については、外国企業の株式・債券等への投資を検討。

5. 我が国との二国間経済関係

貿易額：07年の貿易総額は2兆5千億円を超え、過去最高の貿易額を記録。

輸出 1兆2657億円、輸入 1兆2398億円(07年、財務省統計)

両国の貿易関係は経済規模に比し低調だが、近年は乗用車の輸出拡大により拡大傾向にある。

対露直接投資額：117億円(07年、財務省統計)

主要貿易品目：輸出(乗用車、建設用・鉱山用機械、バス・トラック、荷役機械、ゴム製品)

輸入(原油及び粗油、非鉄金属、魚介類、石炭、木材)